

G10-02

調査研究 報告書 第469号

生きる力を育てる道徳科授業づくりに関する研究

令和8年3月  
千葉県総合教育センター

# 生きる力を育てる道徳科授業づくりに関する研究

千葉県総合教育センター

カリキュラム開発部研究開発班

## 1 主題設定の理由

今日、予測困難な社会を生き抜く子供たちにとって、自己の生き方を考え、他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことは、学校教育における最重要課題の一つとなっている。

国が策定した「第4期教育振興基本計画（令和5年6月閣議決定）」においては、目標の一つに「豊かな心の育成」が掲げられ、「特別の教科 道徳（以下、道徳科）」

を要とした道徳教育の推進が明記された。これを受け、「第4期千葉県教育振興基本計画（令和7年3月）」においても、「未来を切り拓く『人』の育成」を基本目標に据え、発達段階に応じた体系的・系統的な道徳教育の推進を重要施策として位置づけている。このように、道徳教育の充実は、国および本県における教育施策の根幹をなすものであり、その質的改善は喫緊の課題であると言える。（図1）

道徳科が「特別の教科」として位置づけられ、一定の期間が経過したが、依然として多くの教員がその指導に困難を感じている。本センターが昨年度実施した、県内公立学校教員2,475名を対象とした実態調査の結果、全年代において約7割以上の教員が道徳科の授業づくりに「難しさ」を感じている実態が明らかとなった。

特に、経験年数0～5年未満の若年層教員においては、その割合が78.9%に達しており、教職経験が浅い段階での支援が極めて重要であることが示された。一方で、30年以上の経験を持つ教員においても74.8%が難しさを回答しており、これは単なる経験不足によるものではなく、従来の「読み物道徳」から「考え、議論する道徳」へのパラダイムシフトに伴

う、指導法や評価の在り方に対する根源的な悩みであると推察される。（図2）具体的な困難点としては、「児童生徒の多面的な見方・考え方を引き出す発問の構成」「本音で語り合える対話の場の設定」「主観的な変容を捉える評価の工夫」など、授業の全過程にわたって具体的な指針が求められている。（図3）

高度情報化やグローバル化が加速する現代社会においては、価値観が多様化し、

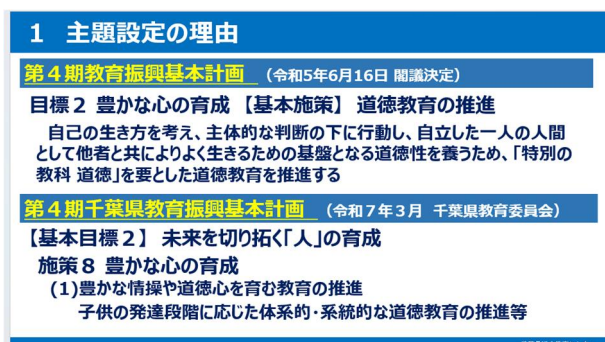


図1 研究発表会スライド資料より

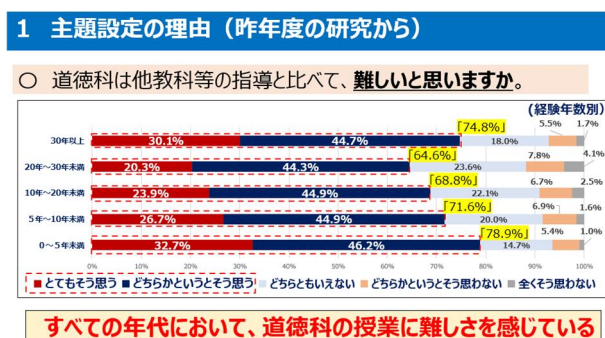


図2 研究発表会スライド資料より

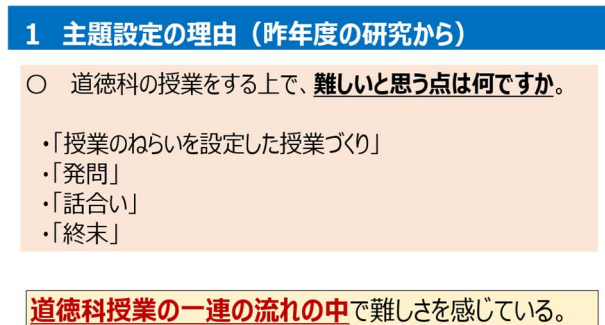


図3 研究発表会スライド資料より

正解のない問いに対して自分なりの納得解を導き出す力が求められている。道徳科は、単に規範意識を教え込む場ではなく、多様な価値観との出会いを通して、自己の生き方を主体的に見つめ直す場であるべきである。

本研究では、これまでの実態調査から得られた課題を基に、子供たちが主体的・対話的に学び、考えを深める授業の在り方を追究する。特に、教師が授業場面においてどのような役割を果たすべきか、その具体的な関わり方を理論と実践の両面から整理することで、教員の指導力を高め、ひいては子供たちの生きる力の源泉となる道徳性を育むことを目指すものである。以上の理由から、本研究主題を設定し、2年間にわたる調査研究を推進することとした。

## 2 研究の目的

本研究は、県内教員の実態調査を踏まえて収集した道徳科授業の実践を詳細に分析し、「考え、議論する道徳」を実現するための教師の具体的な関わり方や役割を明らかにすることを目指している。得られた知見を「成果物」として発信し、研修等で活用することで、教員の指導力向上の一助となり、最終的に子供たちの生きる力を育てることを目的としている。

## 3 研究計画

令和6年度	令和7年度
<ul style="list-style-type: none"> <li>○調査研究計画立案</li> <li>○道徳科授業づくりに関する実態調査についての基礎研究(有識者助言等)</li> <li>○県教員実態調査及び分析</li> <li>○次年度調査研究(「成果物」作成)の方向性の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳科授業に関する文献調査</li> <li>○協力員・協力校の取組・実践事例収集</li> <li>○成果物の作成及びWebアップ</li> <li>○研修コンテンツ作成</li> <li>○広報資料作成(リーフレット等)</li> </ul>

## 4 研究概要

### (1) 令和6年度(調査研究1年目:基礎研究)

調査研究の方向性を明らかにすることを目指して、「道徳科授業づくり」に係る県の実態調査(質問紙調査・聞き取り調査)や文献調査(国や県の通知・先行研究・他自治体の研究等)を行った。

### (2) 令和7年度(調査研究2年目:実践研究)

令和6年度に見出した調査研究の方向性を基に、実践研究を行う。具体的には、文献調査を通して道徳科授業づくりに関する情報収集・整理をしたり、県内協力員・協力校の取組や実践事例をまとめたりする。そして、その内容を道徳科授業づくりに関する「成果物」や、研修で活用するコンテンツにしてまとめる。

(図4) ※その詳細は「6 今年度の取組」参照

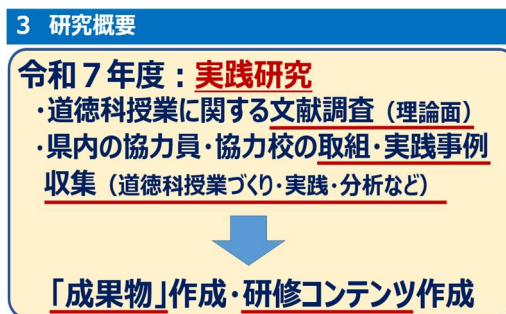


図4 研究発表会スライド資料より

## 5 研究組織

### (1) 共同研究者（研究会議講師）

ア 土田 雄一教授（千葉大学グランドフェロー・敬愛大学教育学部教授）

イ 松田 憲子准教授（神田外語大学英米語学科准教授）

研究の質を高めるため、道徳教育の専門家である土田雄一先生および松田憲子先生を招聘し、計3回の研究会議を開催した。これからの時代に求められる道徳科授業の在り方について、専門的な見地から多くの助言をいただいた。

### (2) 研究協力校・協力員

令和7年度（調査研究2年目：実践研究）実践事例など収集のため、各教育事務所に研究の概要を説明し、道徳科授業づくりに優れた教員や、学校全体で道徳教育や道徳科授業づくりに取り組む学校等の推薦をしていただいた。（表1）

表1 研究協力校・協力員について

協力校	協力員
八街市立川上小学校	米丸 あかね（市川市立行徳小学校）
八街市立八街南中学校	松永 美佳（松戸市立和名ヶ谷小学校）
白子町立白潟小学校	齋藤 紅也（四街道市立四和小学校）
木更津市立木更津第一小学校	君塚 剛生（山武市立山武中学校）
木更津市立太田中学校	松井 綾子（一宮町立一宮中学校）

## 6 今年度の取組

### (1) 「考え、議論する道徳」の具体化

#### ア 目指すべき学びの姿

これからの学校教育が目指す姿は、中教審答申が示す「持続可能な社会の創り手」および「自立した学習者」である。道徳科においては、これを「考え、議論する道徳」の実現と定義した。（図5）

子供たちが向き合う課題には正解が一つではない問いが多く、自分の考えを説明する力や、他者の考えを尊重し、違いを認めながら協働する力が求められる。

「考え、議論する道徳」は、これらの力を育てる土台となる。（図6）

#### 4 研究の内容

これからの時代を生きる力を育てる道徳科授業づくり

##### 目指す子供の姿

「持続可能な社会の創り手」「自立した学習者」

##### 子供の学びの姿

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、  
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業

##### 学びを支える教師の姿

子供一人一人の学びを最大限に引き出す役割を果たし、  
子供の主体的な学びを支援する伴走者

（参考）令和6年度全国学力・学習状況調査「全ての子供の学びの可能性を最大限に引き出す、個別最適な学び」と、協働的な学びの実現～（調査）令和3年1月2～6日 中教審調査部

図5 研究発表会スライド資料より

#### 4 研究の内容

##### 子供の学びの姿

#### 「考え、議論する道徳」

##### 【児童生徒につけさせたい力】

- ・自分の考えをつくり、理由を説明する力
- ・他者の考えを理解し、尊重する姿勢
- ・違いを認めながら協働する力
- ・価値を自分事として捉え、行動につなげる力

図6 研究発表会スライド資料より

イ 「考え・議論（対話）する」の定義

(ア) 考える

自分事として、主体的にどうすることがよいのかを考えること。

(イ) 議論する（対話する）

意見を交流し、よりよい答えを導き出すために話し合うこと。

互いの考えを聞き合い、違いを認めながら自己の考えを深め、よりよい生き方を共に探ること。

(ウ) 納得解の追究

互いの価値観を認め合い、磨き合いながら、その時々における「納得解」（自分も納得でき、周囲の納得も得られる解）を導き出していく。これらの往還を通し、自分も周囲も納得できる「納得解」を追究しく。（図7）

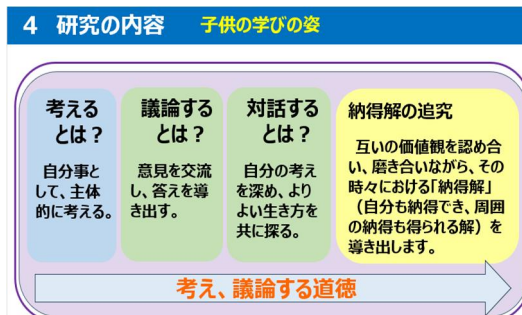


図7 研究発表会スライド資料より

(2) 学びを支える教師の姿（教師の4つの姿）

「考え、議論する道徳」授業の充実に向けて、研究協力員の先生方に実践していただき、その授業を分析した。1時間の授業の中には、「児童生徒の学びを支える教師の姿」として、4つの姿があることがわかった。それは、「先導する姿」、「伴走する姿」、「後援する姿」、「見守る姿」である。（図8）

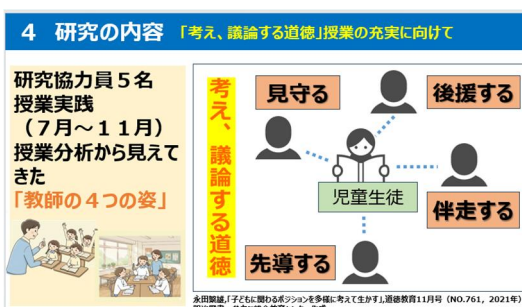


図8 研究発表会スライド資料より

道徳科の授業では、教師が一つの姿に固定されるのではなく、授業の流れや児童生徒の様子に応じて、「先導する」、「伴走する」、「後援する」、「見守る」といった4つの姿に分類されていることが明らかになった。この姿が「考え、議論する道徳」につながっていく。（図9）

4 研究の内容 学びを支える教師の姿～教師の4つの姿～

教師の姿	子供との関係	主な場面	子供の変容
<b>先導する</b> 問いや問題意識をもたせる人 (葛藤場面、揺さぶられる場面等) 方向を示す人 (示唆)	導く	導入・整理	気付く 考え出す
<b>伴走する</b> 学びを引き出し、支える人 学びを整理し、明確化する人 共に学び、考える人 (共感)	思考と対話を 支える	展開・対話 発問・整理	信頼する
<b>後援する</b> 学びを助け、広める人 場や環境を整える人 (支援)	主体性を 支援	話し合い 活動	安心する
<b>見守る</b> 話し合いや動作活動などを見届ける人 (信頼)	成長を信じる	終末・振り返り 評価	自立する

永田繁雄,「子どもに関わるポジションを多様に考えて生かす」,道徳教育11月号 (NO.761, 2021年), 明治図書: 参考に総合教育センター作成

図9 学びを支える教師の姿～教師の4つの姿～

ア 先導する姿：問いや問題意識をもたせる人

子供が簡単には決められない葛藤場面や、考えを揺さぶられる場면을意図的に設定し、学びの方向を示す役割。

(ア) 実践事例1 (小学1年)：「きまりを守るとみんながハッピーになる」という話し合いの後、「きいろいぼうしは、かぶらなくてもいいの？」と身近な例を問いかけ、当事者意識を高めた。(図10)

#### 4 研究の内容 学びを支える教師の姿～教師の4つの姿～

##### 「先導する」場面 『きまりのたいせつさ (小学1年)』

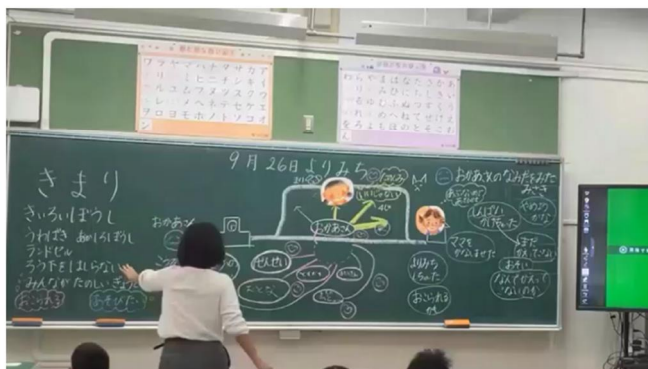


図10 「先導する」場面 小学校1年生



【二次元コード】  
図10の授業動画

(イ) 実践事例2 (中学2年)：臓器提供について、「もし家族が脳死と判定されたら」という問いを投げかけ、生徒に葛藤を生じさせた。(図11)

#### 4 研究の内容 学びを支える教師の姿～教師の4つの姿～

##### 「先導する」場面 『命をつなげる (中学2年)』

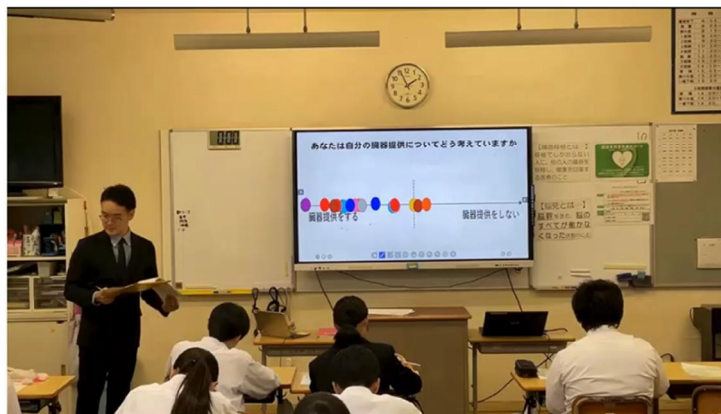


図11 「先導する」場面 中学校2年生



【二次元コード】  
図11の授業動画

イ 伴走する姿：学びを引き出し、整理する人

正解を急がせず、子供の迷いや本音に共感しながら、考えを言語化し整理していく役割。

(ア) 実践事例3 (小学4年)：「幸せな時、心の中はどんな感じ？」という問いに対し、「ふわふわ」「ぽかぽか」といった子供の感性豊かな表現を引き出し、板書で共有した。(図12)

#### 4 研究の内容 学びを支える教師の姿～教師の4つの姿～

##### 「伴走する」場面 『命があるということ (小学4年)』



図12 「伴走する」場面 小学校4年生



【二次元コード】  
図12の授業動画

(イ) 実践事例4 (小学5年)：友情に関する多様な意見が出る中で、「3人に共通していることは何だろう？」と問いかけ、本質的な価値(友人を思う心)を共に整理した。(図13)

#### 4 研究の内容 学びを支える教師の姿～教師の4つの姿～

##### 「伴走する」場面 『本当の友情とは (小学5年)』



図13 「伴走する」場面 小学校5年生



【二次元コード】  
図13の授業動画

ウ 後援する姿：学びを助け、環境を整える人

子供同士が安心して意見を出し合える場を整え、行き詰まった際にはさりげなくヒントを出す役割。

(ア) 実践事例5 (中学3年)：差別の問題について、あえて少数意見を取り上げることで、多様な視点に触れさせ、議論をさらに深める後援を行った。

(図14)

#### 4 研究の内容 学びを支える教師の姿～教師の4つの姿～

##### 「後援する」場面 『差別や偏見のない社会の実現 (中学3年)』



図14 「後援する」場面 中学校3年生



【二次元コード】  
図14の授業動画

エ 見守る姿：話し合いや活動を見届ける人

授業の終末等において、一人一人の内省を促すために、あえて介入せず成長を信じて見守る役割。

(ア) 実践事例6 (小学4年)：「幸せの木」に自分の見つけた幸せを貼っていく活動において、子供たちの自然な気づきを大切に見届けた。(図15)

#### 4 研究の内容 学びを支える教師の姿～教師の4つの姿～

##### 「見守る」場面 『命があるということ (小学4年)』



図15 「見守る」場面 小学校4年生



【二次元コード】  
図15の授業動画

## 7 研究のまとめ

### (1) 成果

- ア 2,400名を超える大規模な質問紙調査および、20名の教員への詳細なインタビュー調査により、県内教員の道徳科授業づくりに関する実態を多角的に把握することができた。調査の結果、多くの教員が道徳科に高い関心を持ちつつも、依然として「発問」や「評価」、「話合いの構成」に強い困難感や迷いを抱えていることが浮き彫りとなった。特に若年層教員においては、授業の基本的な展開そのものに対する不安が大きく、具体的かつ実践的な支援が求められているという情報ニーズを明確に特定することができた。
- イ 文献調査および実践事例の分析を通じ、これからの時代を生きる力を育てる道徳科授業の在り方を、「先導する」「伴走する」「後援する」「見守る」という「教師の4つの姿」として構造化した。これにより、抽象的になりがちだった「考え、議論する道徳」における教師の役割が、授業の場面（導入・展開・終末）や児童生徒の学びの状況に応じてどのように変化し、往還すべきかが具体的に明示された。この知見は、教員が自らの授業を振り返り、改善を図るための新たな「分析の視点」を提供するものである。
- ウ 2年間の研究成果を凝縮し、明日からの授業で活用可能な「道徳科授業づくりガイドブック」を構成した。本ガイドブックは、単なる理論の解説に留まらず、具体的な授業場面における教師の言葉かけや立ち居振る舞い（教師の姿）を例示しており、教員が「より良い道徳科授業のイメージ」を具体的に描ける内容となっている。また、模擬授業や授業参観を重視した「参加・体験型」の研修コンテンツの方向性を見出したことも、現場のニーズに応える大きな成果と言える。

### (2) 課題

- ア 作成した「ガイドブック」や研修コンテンツが、県内全ての教員に等しく活用されるよう、周知の方法を工夫する必要がある。本センターのウェブサイトへのアップロードに加え、各教育事務所との連携による悉皆研修での紹介や、二次元コードを活用した情報アクセス環境の整備など、現場の教員が「必要な時に、迅速に」本研究の知見に触れられる仕組みづくりを推進していく。
- イ 教育を取り巻く環境や子供たちの実態は常に変化しており、道徳科授業に対するニーズもまた変容し続けるものである。そのため、本研究で得られた成果を固定化せず、各市町村で実施される研修や授業実践から得られる「生きた情報」を継続的に収集し、研修コンテンツを適宜アップデートしていく必要がある。学校全体で道徳教育に取り組む推進校等の実践事例をさらに蓄積し、理論と実践を相互に補完し合う調査研究を止めることなく継続していくことが求められる。

## 【参考資料】

- ・第4期教育振興基本計画（令和5年6月16日閣議決定）
- ・第4期千葉県教育振興基本計画（千葉県／千葉県教育委員会）
- ・令和3年度道徳教育実施状況調査（2022年3月：文科省）
- ・『『特別の教科 道徳』についての小・中学校教員ニーズ調査』  
松田憲子・土田雄一 神田外語大学紀要第31号 2019
- ・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編（文科省）
- ・「知りたいことがきっとわかる！道徳教育Q&A」河合宣昌 日本文教出版 2018
- ・「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（令和3年1月26日：中央教育審議会）
- ・学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料（令和3年3月版）文部科学省初等中等教育局教育課程課
- ・永田繁雄 「子どもに関わるポジションを多様に考えて生かす」 道徳教育 11月号（NO.761 2021年） 明治図書
- ・永田繁雄 「教師も『伴走者』として主体的かつ柔軟にかかわる」 道徳教育 12月号（NO.810 2025年） 明治図書
- ・令和5年度佐賀県教育センター個別実践研究（個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実）
- ・ゼロから学べる道徳科授業づくり 荒木寿友 明治図書 2017
- ・はじめての道徳 永田繁雄・浅見哲也 東洋館出版社 2025

## 【研究講師及び実践校（協力校・協力員）一覧（敬称略）】

### ○講師

千葉大学グランドフェロー・敬愛大学教育学部	教授	土田	雄一
神田外語大学外国語学部	准教授	松田	憲子

### ○協力校及び協力員

八街市立川上小学校			
八街市立八街南中学校			
白子町立白瀉小学校			
木更津市立木更津第一小学校			
木更津市立太田中学校			
市川市立行徳小学校	教諭	米丸	あかね
松戸市立和名ヶ谷小学校	教諭	松永	美佳
四街道市立四和小学校	教諭	齋藤	紅也
山武市立山武中学校	教諭	君塚	剛生
一宮町立一宮中学校	教諭	松井	綾子

【研究担当所員】

〈令和6年度〉

千葉県総合教育センター カリキュラム開発部

	部 長	鈴木 賢一
研究開発班	研究指導主事	中井 博明
	研究指導主事	串田 篤則 (主担当)
	研究指導主事	多田 善光
	研究指導主事	橋本 淳
	研究指導主事	大塚 貴士
	研究指導主事	関 里英子

〈令和7年度〉

千葉県総合教育センター カリキュラム開発部

	部 長	佐々木浩幸
研究開発班	研究指導主事	清水 健広
	研究指導主事	多田 善光 (主担当)
	研究指導主事	新 雅晶
	研究指導主事	齊藤 典子
	研究指導主事	稗田 隆二
科学技術教育班	研究指導主事	海老原恭子

研究報告 第469号

---

---

令和8年3月

編集発行者 千葉県総合教育センター所長 酒井 誠一

発行所 千葉県総合教育センター

〒261-0014 千葉市美浜区若葉2丁目13番地

TEL 043 (276) 1166

---

---